理学部１号館　運営委員会議事録　雑感

宮　本　健　郎　（物理学教室）

20数年ぶりにこの本郷キャンパスにＵターンしてきて１年有余になる。学生時代の良き思い出が残っていたせいか，昔はもっと調和のとれた清潔なキャンパスではなかったかという思いに，最初とらわれた。確かに20数年の間に日本は高度成長を遂げ，世間一般の建物が立派になったし，またプリンストン大学やケンブリッジ大学の塵一つなく整備されたキャンパスに強い印象を受けたりして，比較水準が高くなっているせいかも知れない。しかし，まわりの環境と不調和な建物が建っていたり屋上につぎはぎの建物が重なっていたり，建物のまわりに色々のものが無秩序に置かれたりしているのを見ると，色々の事情はあるにせよ，もう少し大学全体として，キャンパスの景観に神経をはらってもよかったのではないかと思ったりしてもみた。

そうこうしている内に，現実の本郷キャンパスに馴み始めた頃，56年度より，理学部１号館の運

営委員長という重責をお引き受けするはめになってしまった。前委員長の霜田光一先生より引き継ぎを受けた議事録は昭和27年にまでさかのぼる。色あせた紙に書かれた議事録を眺めていると，これまでに先輩の先生方がいろいろ議論を重ねながら一歩一歩研究環境の改善に努力を積み上げてこられた様子がしのばれる。

1号館運営委員会のはしりは，昭和29年の1号館増築（北側）に関する相談会である。昭和27年12月5日の第1回相談会のメモを眺めると，メンバーは，芽理学部長，田坂事務官，藤田（天文），弥永（数学），今井，平田（物理），正野，松沢（地物）の先生方である。第Ⅰ期増築（南側）が29年8月，第Ⅱ期増築（南側）が30年3月完成である。相談会は5回で終っている。

第1回1号館運営委員会が開かれたのは，30年3月25日である。平田森三先生が委員長で，メンバーは弥永（数学）鏑木（天文），久保（物理）日高，磯野（地物）田坂（事務）の方々である。第5回（30年）の議事録では相つぐ盗難事件の発生で，南側通用口の閉鎖が検討された。その可否についてのアンケートがとられ78：8で不賛成という結果が出ている。結局午前8時から午後6時までだけ通用口を明けることになった。昭和33年第Ⅲ期増築（西側），34年度に天文，地物か理学部3号館（浅野キャンパス）に移転，37年3月，第Ⅳ期増築（西側，計算機センター）が完成，そして昭和41年3月平田先生の後を霜田先生が引継がれた。

第24日（41年6月22日）のメンバーは霜田（委員長），弥永（教字），久保，後藤，飯田（物理）永田（地物）高宮（生化），吉野，杉森，岡野(事務）の方々である。41年10月に物理学会事務室が1号館から立退き，41年第Ⅴ期増築（4階,数学）が完成とある，第28回（44年1月28日）では学園紛争による被害補修費，用務員の被害見舞金の負担についての議題があり，当時の御苦労の様子がしのばれる。44年理学部4号館完成，51年3月第Ⅵ期増築（4階，物理），55年増築部分の外壁レンガ張り，56年3月防火扉の設置があり，第49回の運営委で霜田先生より運営委員長をお引き受けすることになった。

ここ一年の間に1号館の外壁が落ちついた色調の赤レンガで統一され，防火扉の設置で階設まわりが一新された。1号館はたしかに古い建物ではあるけれどもたえず整備され，タバコのすいがらやごみ等がちらかっていることなく清潔に保たれておれば，新しい建物にはない，古き伝統を感じさせる荘重な雰囲気がある。議事録を眺めて先輩の方々の御努力をしのび，民主的な運営の伝統を引継き，皆様方の御協力をえながらこれからの1号館の運営に努力をしたいと思った次第である。